

3つの大切なこと

2022. 8. 25

「挨拶をしなさい」という教えに異を唱える人はいないだろう。挨拶をするかしないか、挨拶ができるかできないかが、その人を判断したり、評価したりする際の一つの重要な基準となっている。挨拶はするもの、挨拶は大切だということは、世の中のスタンダードとなっている。

「挨」にも「拶」にも「触れる」とか「押す」という意味がある。人間が触れ合ったときには、挨拶によって人間関係はスムーズにいく。だから、挨拶に始まって挨拶に終わるのである。

いろいろな会議や研修会に参加する。会の運営スタッフや知り合いのところに、まずは挨拶に行く。「こんにちは。〇〇です。よろしくお願いします」「どうも、お久しぶりです。～」会が終了する。「お世話になりました。大変勉強になりました。～」「それでは、またそのうち」などと必ず挨拶してから会場を後にする。

この挨拶には、大切なことが3つあると知った。その一つは「時の宜しきを得る」である。人間の心というものが最もよく表れるのは目である。目は口よりもものを言う。目というのは常に真実を物語っている。だから礼をするときには、はじめに相手の目をよく見る。そして頭を下げたときに、もう一度相手の目を見る。だから、目が合うということが大事なのである。

挨拶に大切なことの二つめは「言葉の宜しきを得る」である。「おはようございます」とか「こんにちは」とか、そのときに応じて言葉を変える。また「おはよう」「おはようございます」というように、相手に応じて言葉を変える。これを瞬時に判断して適切な言葉を使う。

三つめは挨拶の内容が道理に合っていることである。無茶な言葉を使わない、そういう挨拶を「事の宜しきを得る」という。人間の道義の根本をなすものは義理と人情である。

挨拶には3つの宜しきを得ることが大切である。これを「挨拶の三宜（さんぎ）」という。このことを幼少の時分から繰り返し行っていると、挨拶というものが身につけて、どこから見ても美しい仕草になる。にわか仕立てでは、どことなしにぎこちない。やはり幼少の時分から、あるいはいつもこういうことを心がけて挨拶をしていると、どこから見ても感じがよくなる。

「挨拶をしなさい」「挨拶をしましょう」というのと「挨拶には3つのポイントがあります」とでは、だいぶ受け取り方が違って来る。「挨拶をしなさい」という場合は、「おはようございます」や「こんにちは」を相手に聞こえるように声に出していうことをさせたいのではなかろうか。あるいは、頭を下げるだけの場合もある。

学校では、挨拶運動などを通して挨拶ができる人間を育成しようとしている。本校の学校経営・運営ビジョンにも「あいさつ励行」や「さわやかなあいさつ」といったフレーズが入っている。まずは挨拶なのである。そうであるならば、「挨拶をしよう」という日常の働きかけに加えて、ときには、挨拶について掘り下げて指導する機会があってもよい。その際、今回取り上げた3つの大切なことが生きてくる。